

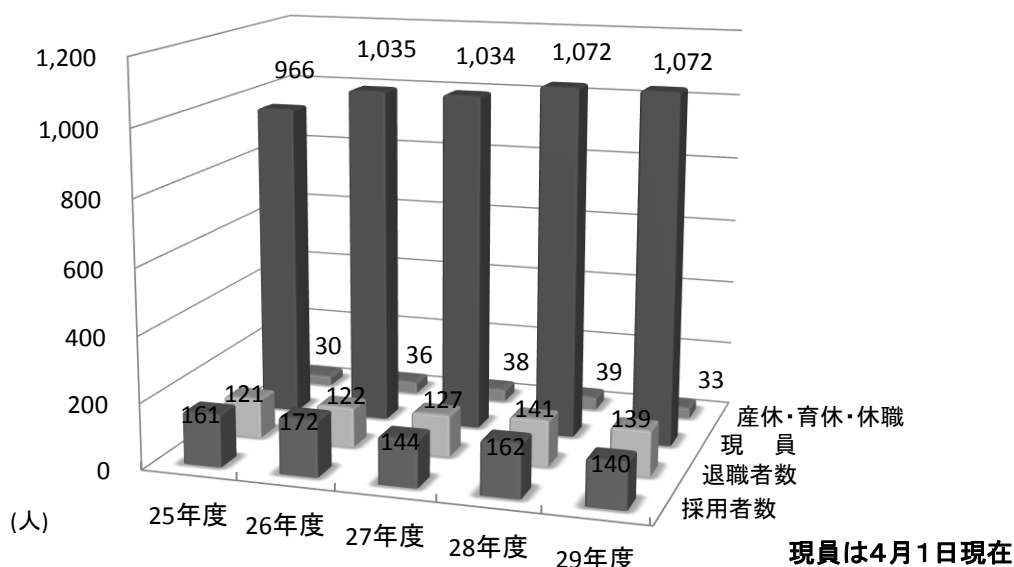
34 看護部



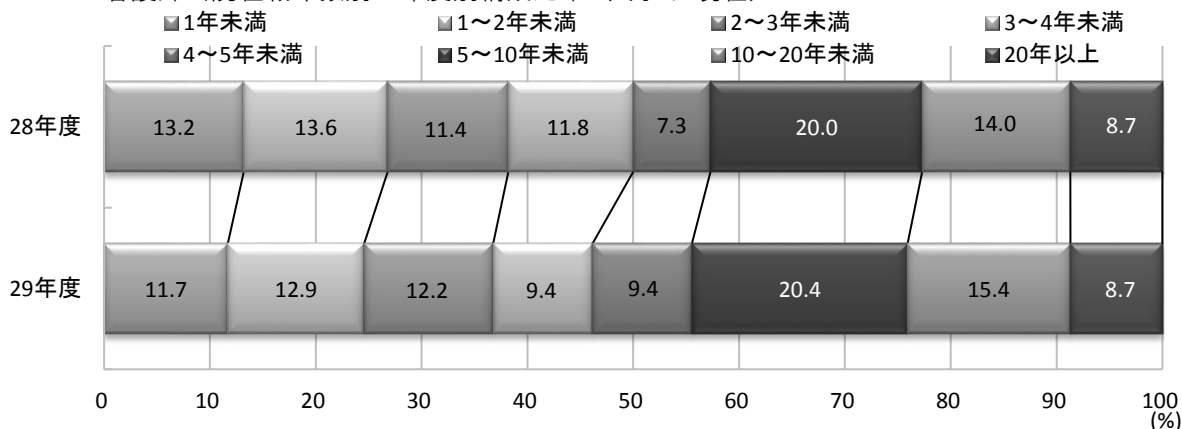
看護部は、“SWEET”をモットーに、看護職員一人ひとりが自己の役割と責任を果たすべく看護業務に取り組んでいる。看護職員の確保・定着に努め、退職率は13%、うち新採用者は4.3%の低値である。(図34-1, 34-2)。重症度、医療・看護必要度において、A項目は急性期医療・処置(ME機器の装着、管理、モニタリングなど)を、B項目は患者の状況(自立度)等を、C項目は手術等の医学的状況を評価している(図34-3, 34-4)。患者の観察度、自由度(図34-5, 34-6)からは重症患者が年々増加してきているものの、依然として全病棟で常にB項目の点数が高く、日常生活援助に多くの看護力を費やしている状況である。30年度診療報酬改定で、特定機能病院の7対1入院基本料の施設基準である「重症度、医療・看護必要度」の判定基準の一部見直しが行われ、従来の25%から28%へ引き上げられた。これを維持するために、当院での医療、処置が終了した患者がスムーズに退院または転院ができるよう、医師をはじめメディカルスタッフと連携を強化していく。さらに在院日数の短縮により、治療処置・ケアニーズの高い患者が外来へとシフトしていることから、在宅療養指導や看護外来の充実を図り、患者支援強化に向けた取組みを継続している(表34-7)。今後も入院前から退院(転院・在宅)に向け、積極的に介入し、継続看護の更なる質向上を目指す。

- Sincerity : 誠実(な行動)
- Warm : あたたかい(対応)
- Evidence : 根拠ある(実践)
- Ethics : 倫理(的感性)
- Technique : (確かな)技術

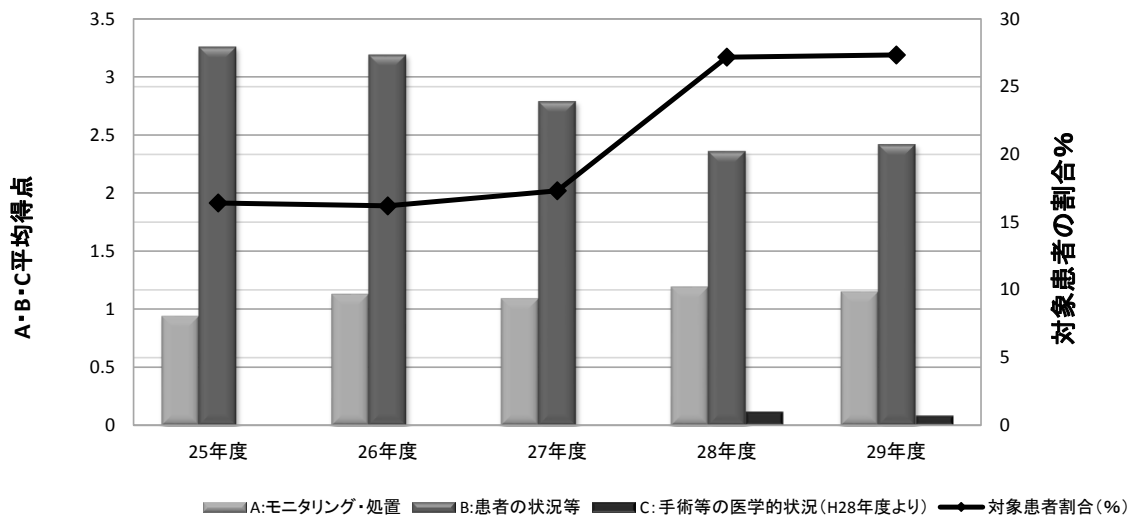
34-1 看護師数の年度別推移



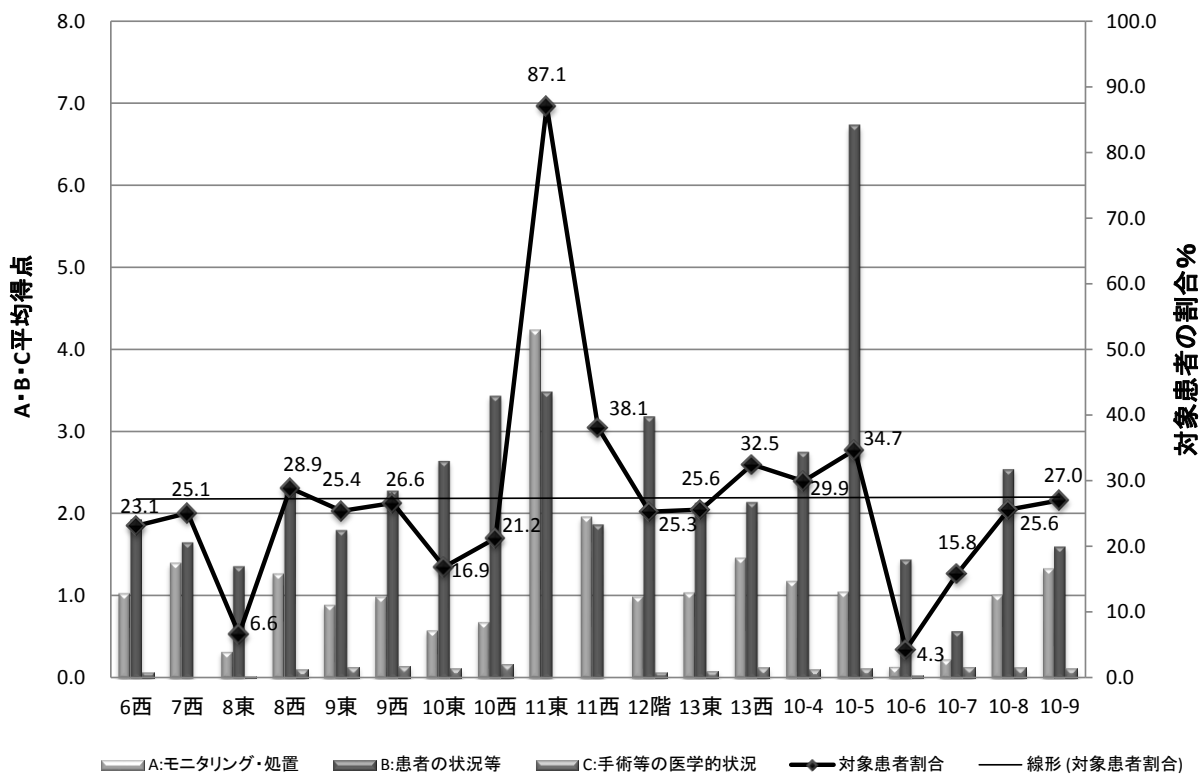
34-2 看護師当院在職年数別の年度別構成比率(4月1日現在)



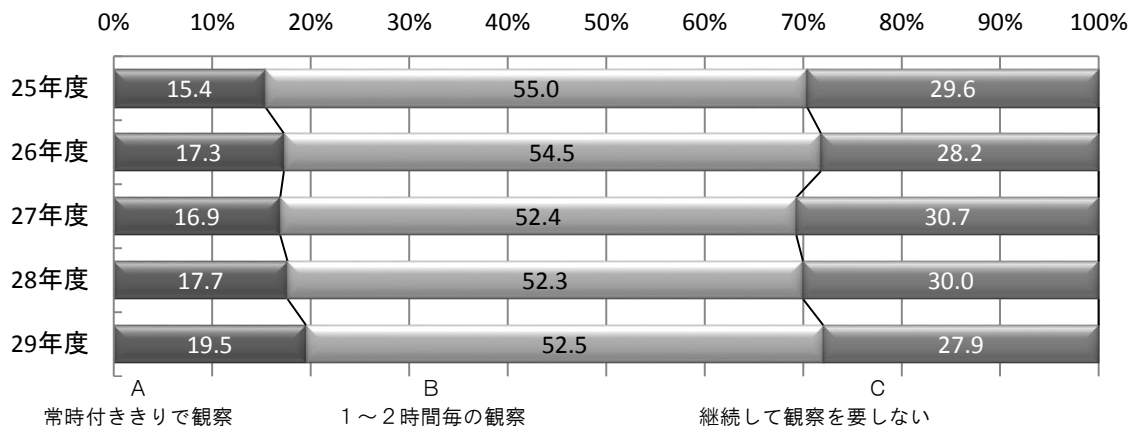
34-3 7対1 対象病棟における重症度、医療・看護必要度平均得点の年度推移
 対象患者：A項目2点かつB項目3点以上、A項目3点以上又はC項目1点以上
 ※28年度診療報酬改定により項目の変更、C項目の追加あり。



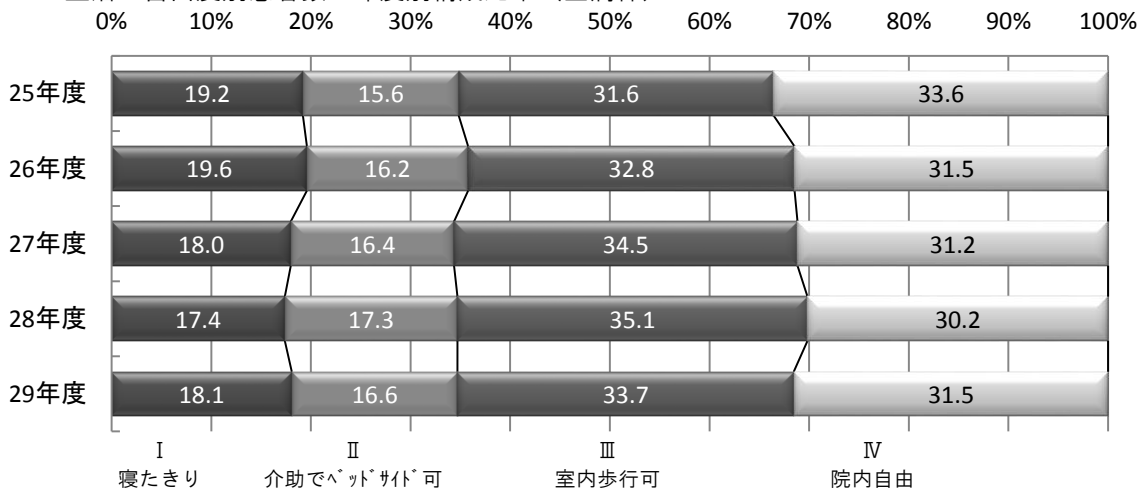
34-4 29年度 7対1 対象病棟別重症度、医療・看護必要度 項目別平均得点および対象患者割合



34-5 看護観察度別患者数の年度別構成比率（全病棟）



34-6 生活の自由度別患者数の年度別構成比率（全病棟）



34-7 年度別外来看護活動状況

(件)

区分		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	29年度 構成比率 (%)
療養指導	在宅療養					692	9.4
	自己注射	526	516	678	803	1,071	14.5
	自己腹膜灌流	23	23	5	11	3	0.04
	酸素療法	66	46	64	155	147	2.0
	人工呼吸					13	0.2
	中心静脈栄養		8	4	5	16	0.2
	成分栄養経管栄養	54	26	19	14	454	6.1
	自己導尿	28	64	43	60	80	1.1
	糖尿病透析予防					302	4.1
がん化学療法					699	9.4	
看護外来	造血幹細胞移植看護					96	1.3
	禁煙サポート					1	0.01
	フットケア	-	366	521	497	595	8.0
	糖尿病看護					454	6.1
	慢性病看護					257	3.5
	子ども看護					13	0.2
	がん看護					589	8.0
	周術期看護					124	1.7
	リンパ浮腫	-	468	141	116	219	3.0
	ストマケア	1,006	1,082	1,127	955	1,125	15.2
ストマサイトマーキング	-	169	183	224	201	2.7	
母乳外来	-	100	152	138	164	2.2	
マタニティヨガ	-	76	92	78	82	1.1	
合計		1,703	2,944	3,029	3,056	7,397	100.0

※29年度より表記方法変更